

2008年度開講科目

## 調査実習概要報告書

\*/\*

2009年4月29日

科目担当者氏名 (ふりがな) こばやし だいすけ・やまなか ちえ・しまおか はじめ 小林 大祐・山中 千恵・島岡 哉		目担当者連絡先 (メールアドレス)
連絡責任者氏名 (ふりがな) こばやし だいすけ 小林 大祐		科目設置機関名 仁愛大学
授業科目名 社会調査演習a, b	科目認定番号 JNAa-080701-2 JNAa-080702-2	受講者数 29名

## I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：3人の担当者が量的調査、内容分析、インタビュー調査に分かれて実習を行ったが、それぞれの班において、受講生は準備段階から実査、そしてデータ分析、報告書執筆まで積極的に関わり報告書完成まで比較的スムーズに進んだと感じている。

## II. 調査の企画・設計 (デザイン)

1. 調査のテーマ/領域：福井を調査するというテーマで、量的調査班が福井の大学生の消費生活を、内容分析班が福井のメディアを、インタビュー調査班が福井に暮らす人々について調査を行った。

2. 調査の内容/概要：量的調査班では、大学生が現在どのような消費行動を行っているか、どのようなライフスタイルを望んでいるのかについて、学生生活の様々な側面と関連づけて調査をおこない、内容分析班では、福井のローカル番組に焦点を当て内容分析をおこない、インタビュー調査班では福井で暮らしている人々のライフコースの聞き取りをおこなった。

3. 調査の範囲/対象 (量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入)：量的調査：同志社大学社会学部社会学科および仁愛大学人間学部コミュニケーション系学科の学生を対象とした全数調査。内容分析：福井テレビ『い〜ざあええDay』放送2回分。インタビュー調査：福井県内に暮らしている人々を、受講生のつてによって選定した。

4. 主な調査項目：量的調査：1ヶ月あたりの消費額、消費活動のタイプ、実家にある財、理想とするライフスタイル、ファッションやマンガ、お笑いの好み等。内容分析：番組内での発話回数、笑いの回数、背景音等。インタビュー調査：福井という地域との関わりという観点から、インフォーマントのライフコース全般について。

## III. データ収集の方法と結果

5. データ収集 (現地調査) の方法：量的調査：対象大学である同志社大学、仁愛大学における演習やガイダンスの時間をもって調査票の配布と回収を行ってもらい集合調査法によりデータ収集を行った。内容分析：HDDレコーダーで番組を録画したものに對して、調査項目をカウントする方法でデータ収集を行った。インタビュー調査：ICレコーダーによる個別面接によるインタビュー調査を行った。

6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：すべての調査班において、2008年9月～10月にかけて実査を行った。調査員は受講生全員である。調査地については、量的調査は仁愛大学と同志社大学。内容分析はメディア調査なので特に調査地はなく、インタビュー調査は、福井県全域の対象者の家庭などである。

7. 収集したデータの量と質への評価 (量的調査の場合は有効回収票数及び回収率を必ず記入)：量的調査については有効回収数は490 (男性：220名、女性：270名、仁愛大学人間学部コミュニケーション学科3, 4年生：236名、同志社大学社会学部社会学科3, 4年生254名)であった。基本的には全数調査であり、詳細な数値は計算していないが90%前後回収されている。その他の調査については、質的調査なので量は示すことが出来ないが、分析には必要十分のデータ量は収集できたと評価している。

## IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析/解釈の方法：量的調査：統計ソフトSPSSを用いて多変量解析を行った。統計手法としては相関分析、クロス集計表、回帰分析、因子分析などの手法が用いられた。内容分析：コンピューターによる単純集計やクロス集計表による集計が行われた。インタビュー調査：テープおこした文字データの記述を中心に行った。

9. 調査の成果 (調査から得られた主な知見など)：量的調査において、仁愛大学の学生と同志社大学の学生とでは、生活における車の比重に大きな差があることが示され、それが例えばガソリン価格の高騰への関心の差にも表れていることが分かった。内容分析では、番組におけるゲストのイメージとテロップや効果音といった効果との関連が示され、インタビュー調査では、戦時下の空襲や福井大地震のような半世紀以上も前の出来事についての体験談を聞き出すことが出来た。

10. 報告書刊行の予定と概要：2009年4月に社会調査実習報告書『社会調査演習報告書』が刊行され、受講生29名が執筆した29報の論文が所収されている。

<記入上の注意点> 1. 調査のテーマ毎に用紙を替えて(3つのテーマを立てて実施した場合は合計3枚に渡って)ご記入下さい。

2. 最上部の\*印の箇所には数字を(「\*/」)には、報告書が複数枚になる場合のみ、3枚中の1枚目なら1/3とご記入下さい。

3. 全ての項目について具体的にご記入下さい。但し、1テーマ毎に印刷が必ずA4サイズ1枚に収まるようにして下さい。フォントサイズは変えず(設定してある通りにして)、項目毎に分量に応じて「行の高さ」を変えることで調整していただけましたら幸いです。

4. 報告書はウェブ上で公開する予定です。また、調査実習情報をDB化することも検討しています。ご承知置きの上、ご記入下さい。